

会 議 の 概 要

会議名	第 2 回（仮称）次期堺市基本計画等策定検討懇話会
開催日時	令和 2 年 9 月 3 日（木） 13：30～15：00
開催場所	堺市役所 本館 3 階 第 1 会議室
出席委員	（出席）奥村委員 渋谷委員 所委員 橋爪委員 増田委員 松永委員 （欠席）なし
堺市	市長
公開の可否	可
議題及び結果の概要	<p>1 開会</p> <p>2 挨拶</p> <p>3（仮称）次期堺市基本計画骨子（案）等について 事務局：資料説明（資料 1～資料 4）</p> <p>4 意見交換</p> <p>渋谷委員 コロナの発生を機に、10 年、20 年先に訪れると思われていた社会や都市のあり方の 変革がかなり前倒しになった。新しいあり方がイノベティブな都市ということなら、人々 の生活スタイルそのものが変化する中で、そういったエッセンスがあったほうがいいと感じ た。</p> <p>橋爪委員 将来像が「未来を創るイノベティブ都市」だが、それは目標なのか。2025 年、2030 年にそうなっているのでは遅すぎる。目標とプロセスを区別して考えなければならない。 イノベティブな都市であることは、今すぐに始めるべきことであり、手段である。 ダイバーシティは、本来は「ダイバーシティ&インクルージョン」であり、海外では、全ての 人が様々なサービスにアクセスできるというアクセシビリティの概念が含まれている。</p> <p>増田座長 7つのキーワードに、目的と手段が入り乱れている。サステナブル、ダイバーシティ、レジリ エント、ヘルスはあるべき姿で、それを達成するために、スマート、レガシー、クリエイティブ という手段や方法論を使い、それがすなわちイノベティブだと思う。</p> <p>市長 大都市に集中する働き方から、郊外でも働くことができるワーケーション等の流れができ つつあるが、その場所として泉北ニュータウンが最適であると考え、コロナの発生後に更 に強く意識をしている。 堺はイノベティブ都市であったが、近代、現代においては新しい発明や世界一は生 み出されてこなかった。これからもイノベティブ都市であり続けたいという思いで、あえて 「未来を創るイノベティブ都市」と掲げている。これは手段であって、同時に目標、土 台でもある。 目的と手段の分け方は大事である。目的と手段が混合し、手段ばかり重視してしまう</p>

こともあるので、きちんと分けておく必要がある。

奥村委員

コロナで子どもたちのコミュニティが失われている。子どもはコミュニティの中で育ち、そのように育った大人が未来を担っていくためには、新しいコミュニティのあり方や、子どもたちがふれあって育つ環境が必要である。

資料 2 の重点戦略③について、子どもの健やかな成長には、子どもそのものがある空間がとても大事であり、「子育て」「教育」に加え、「地域」における環境の形成という視点を入れるとよい。

増田座長

子どもだけではなく、子育てをしている人や高齢者にとっても、サードプレイス、居場所をどう獲得していくかが重要である。

松永委員

イノベティブは右肩上がりの時代のキーワードというイメージがあるが、市民が求めるものは安心安全や緑であり行政が作っていきたい都市像は、生活者の感じている都市像と乖離している。人口減少時代には、そこをどうすり合わせていくのかが、より重要性を増している。

コロナ後地方移住の動きがあるが、堺市は働く場でありながらベッドタウンでもあり、今回の計画を考えるうえで、対大阪市の人口動態を考慮する必要があるのではないかと。また、泉北ニュータウンがその受け皿になるなら、空間像でそれをもう少し強調してもいいのではないかと。

所委員

地域福祉では、サステナブルの説明にあるウェルビーイングを目指している。個人レベルとコレクティブレベルのウェルビーイングがあり、複数の要素があるということを明確にしておけばいい。

イノベティブは、人によっては異なる意味でとられるかもしれない。この部分はもっと丁寧に伝える必要がある。いろんな人の知恵やチャレンジで作っていけるというイメージをしっかりと伝えられたらいい。

7 つのキーワードの中には、それぞれ重なる部分もある。また、サステナブルの説明にあるSDGsの「誰一人取り残さない」は、インクルーシブにも関わってくる。

今は 3 段階の説明枠になっているが、これ自体もどのように分けているのか。その情報をどんな人に向けて発信するかにも合わせて、見る人にとって分かりやすいものにできればと思う。

計画を考えるうえで、漠然と一般市民や一般の事業者を想定するのか、空間像のように一定の層や人々をイメージした計画なのが見えるといいのではないかと。

橋爪委員

現状の問題意識のなかで、堺は変化していかなければいけないということが示されている。

将来像を目標として見たときに、イノベティブ都市であるということが、これから新しいイノベティブな施策を展開していくということと響き合うようなかたちで構成していただけるといい。

増田座長

イノベティブを手段として見たときの将来の姿が、新たな価値を創造し QOL を高める都市なのだというような構造に見える。その説明をうまく見せる必要がある。堺は、かつては日本をリードしてきたが、それ以降はあまり新しい発信力をもっていない。それに対してどうい発信力をつけていくのが明確になるとよい。

市長

現代は発信力が失われており、経済と若者を呼び込まなければ衰退してしまうという危機感も強い。しかし、イノベティブ都市という言葉が響かないというご意見もあるので、このタイトルについては変更してもいい。市民と一緒にやっというと思ってもらえるようなものにしたい。

渋谷委員

オープンガバメントという新しい公の形態をつくるには、市民や地域社会の参加や連携なくしては成り立たない。イノベーションを間違った意味で捉えられないように、もっと市民目線や繋がり、コミュニティという要素が必要ではないか。

増田座長

資料 2 の計画推進の基本的視点については、多様な主体のパートナーシップ、公民連携、財務戦略、区の機能強化が入り、SDGs の推進や戦略的広報や Society5.0 は、重点戦略に入るべきものではないか。

今までは、地縁型コミュニティとテーマ型コミュニティであったが、居場所づくりを考えていくうえでは、公園などのサードプレイスを共有するコミュニティという要素も出てくるであろう。

将来像に 7 つのキーワードがあるが、基本計画でそれを網羅的に展開するために、1 から 5 の体系に組み換えせず、キーワードとそのままつなげたほうが分かりやすいのではないか。

分かりやすさとは、文言の話ではなく、市民がマスタープランを見て、自分がどんな役割を担えるのかが理解できることである。自分が参画できる手段や方法や窓口が書かれている基本計画にしてほしい。

市長

骨子案を市民に提示する時にはもっと整理したい。今のカタチは全く変えてしまってもいいと考えている。

空間像には地名を記載しているが、特定の地域だけを良くするというつもりではない。その中で、中百舌鳥、泉ヶ丘など、具体的な地名を出したほうがよいのか、ここは住環境、ここは成長エリアというように、地名を出さずに説明したほうがよいのか、ご意見を伺いたい。

もう 1 つ、堺らしさがないと、市民にとっても、誇りや一緒にやろうという強いモチベーションにならない。堺らしさ、尖ったものを出していくために、ご意見を伺いたい。

増田座長

例えば、臨海部の紫の部分の空間像で言えば、海に開けているとか、海に隣接しているという空間像の中で、どんな特化した機能が展開するのかというようなことを書いたらどうか。

機能配置ではなく、都心部には旧環濠などの歴史がある中で、新しい都市機能が動

いているというようなイメージをうまく表現できるとよい。
いろんな機能が言われているが、生活像はどうなるのかも書ければよい。

所委員

堺にはそれぞれ特徴を持ったいろんなまちがある、それをもって堺として理解したり、堺以外の人に堺の魅力として伝えられたりするような、そんなイメージが持てるとよい。それを堺らしさに繋げられたらいいと思う。

橋爪委員

危機感を持ってこれから変えようとしていることが、この図のイメージとして捉えられるか。「現状がこうであるから、このように変わりたい」という夢があるかが問われる。実際にこの空間は、いろんな活動があり、例えば緑の視点から見ると、いろんなレイヤーで情報を変えれば見え方が違う。ダイナミックに伝えられるとよい。ビジョンはあくまでもイメージであり、それを可視化し、具現化するためにプランがある。この図がどちらなのか、調整が必要である。

増田座長

レイヤーによる表現はおもしろい。緑の分布、都市活動の集積、コミュニティ、NPO 活動などの具体的活動が積み重なって1つの像になっているように見せるのは、非常におもしろい。ただし、いかにビジュアル化するかは、少し考える必要がある。ここに書かれている戦略的広報、シビックプライドやブランド化は、地域の誇りについて他地域の人にどう紹介できるかとして見てみるのがよい。泉北で「レモンの街ストーリー」の活動をされている方は、泉北にお土産やブランドがないことから、レモンを泉北の特産品にする活動を始めた。特産品があると、住んでいる地域を分かりやすく説明できる。

松永委員

泉北ニュータウンでは様々なコミュニティ活動をされており、市民活動が盛んだと全国的にも認知されている。空間像で、現在進行形のイノベティブな取組を見せられないか。堺には、世界遺産があり、文化都市でもあり、複合的な大都市だというイメージがある。各エリアのブランドイメージをキーワードとして入れてはどうか。これだけ見ると、空間像が7つのキーワードと切り離されて見える。繋げることも必要である。

市長

7つの将来像を示すのであれば、空間像はそれに紐づけた内容が適切である。松永委員にお聞きしたい。空間像では地名を挙げているが、地名を挙げることのデメリットはあるか。

松永委員

挙げるほうがイメージは湧きやすい。伏せるという案もあるのか。

市長

具体名を出すとイメージが偏るので、もう少しぼかして見せることも考えられる。

橋爪委員

バイエリアと泉北は破線になっているが、地名を入れつつ、このような表現にすることも考えられる。

将来像のうち、サステナブルは、あの並びのなかでは上位概念だと思われるので、その考え方を整理する必要がある。目標と手段の話があったが、全体をまとめる話と、施策の中で焦点が当たるものがあるので、それが重点戦略や空間のあり方など全てに響いてくると考えられる。

奥村委員

地名を挙げることについて、一堺市民の感覚だが、泉ヶ丘や美原はイメージがつくが、中百舌鳥と書いてあると、市民のイメージが偏るのではないか。

増田座長

もともと大阪府で副都心構想があり、千里、荒本、中百舌鳥が副都心だという位置づけであった。

泉ヶ丘と書いてあるのは、南部丘陵エリアの中の都市機能集積エリアという意味ではないか。中百舌鳥も単独ではなく新金岡などと連携して、1つの都市機能の集積エリアになっている。

KGI および KPI について。前のマスタープランは、アウトカム指標が主流だった頃で、たくさん掲げているが、ほとんどがアンケート調査の SD 法（セマンティック・ディファレンシャル法）での評価しかできなかった。

渋谷委員

行政が考えるゴールと市民が考えるゴールのイメージが必ずしも一致していない。結局何がどうなれば、堺市にとって一番よくて、市民にとって一番いいのかが、この計画のままでは不明瞭である。

都市デザインを行った結果、ブランディングが確立し、地価が上がって固定資産税が上がるという、今までであったようなロジックは、今日の議論で出たウェルビーイングという要素にはなじまない。目的や手段、目指すべきゴールのイメージをもう少し掘り下げる議論が必要である。

増田座長

ウェルビーイングを計量化するのは難しい。

市長

今回 KGI・KPI を強く意識した理由は、前回のマスタープランでは目標数値が達成できないものが多かったためである。市民と行政が共通のゴールへと向かっていけているのか、目標達成したらゴールが実現できるのかというところの繋がりが弱かった。

これまでのように何十項目も数値を並べるというよりも、ある程度絞って、目標に近づいていることを市民と行政が共有できるようにしたい。あくまでも、ゴールに合致した目標を設定するつもりである。

増田座長

例えばヘルスは「一人ひとりの健康を大切にして生涯にわたり活躍でき、安心して健やかに過ごせるまち」で、これを代表するものとして健康寿命というようなものを据えるのか、あるいは、活躍できるということなら、社会参画の機会がどれくらい設定されている

かということも考えられる。また、ウェルビーイングやサステナブルも計量が難しいが、ダイバーシティなら、多様な人材が活躍できるという状態を表すために、具体的にどんな指標を設定するのか。これをベースに考えると、繋がりが分かりやすくなるのではないかと。

渋谷委員

全体が総花的でも、KPI の設定に関しては特徴的な尖ったものを設定できると思う。この表現の仕方が肝になると思う。

松永委員

経済生産性を上げようという指標だけではなく、認定 NPO 法人がどの程度できたかなど、質的なことで補っていくことを丹念にしていくべきで、それを定量化できればよい。堺のオリジナルで、数は多くなくていいので、質的な指標を設定できないか。健康寿命のようなデータでとれるものではなくて、市民活動をした結果として現れるもの。そういった指標を、ここで意見を出し合って考えてもいいのではないかと。

橋爪委員

具体的なアイデアはないが、評価の仕方もイノベティブであるべきだと思う。

増田座長

スマートといっても何をもってスマート化というのか、スマートシティもしかりで、それは各行政の志向によって、移動手段としてなのか、エネルギー問題においてなのか、行政の中での ICT の普及のことなのか。反対に、指標を考えることによって、それらももう少し具体的になるのではないかと。思考のアプローチとして、指標を置くとしたら何が置けるのかを考えてみるのも一つの方法かもしれない。

所委員

指標は測れるものを使ってしまいがちだが、それが本当にめざしているものを測れる指標なのか悩む。また、その数値をただ増やせばいいわけでもない。そういった課題がたくさんあるとわかったうえで、決めなければならない。

イノベティブで堺らしい指標はチャレンジだと思うが、限界もある。しかし、これだけはやると絞り込んで、主たるものと、参考指標や補足的な指標を組み合わせるという造りにしたり、補足的なものには質的なものだけではなく数的なものも入れたいと思う。

指標にも市民参画や事業者参画が反映されるようなものを入れて、自分たちでめざし、進めて、評価もしていくことができれば理想である。そうすると、推進基盤に書いてあるような、多様性の尊重や、多様な主体のパートナーシップを基盤にして進めるというところに、説得力が出る。

市長

活発なご意見をいただき、宿題も多くいただいた。KPI の設定も含め、どうすれば堺のことを真剣に考えながら、市民、民間企業、行政が連携していけるかを、もう一度整理する。

増田座長

今日の意見はいろんな視点が出た。それを踏まえて事務局でもう一度ブラッシュアップしていただきたい。

	<p>5 計画策定のスケジュール 事務局：資料説明（資料 5）</p> <p>6 閉会</p>
--	---